

LLL310 日英対照言語学

3年 3,4クォーター

担当教員 皆島 博

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング 該当しない

単位数 2

曜日・時限 木曜日・2時限

授業概要

対照言語学とは、2つまたは2つ以上の言語について、音韻、文法、語彙などの言語体系、さらには、それらが使用される言語行動など両言語の様々な部分を照らし合わせ、どの部分とどの部分とが対応するか、あるいは対応しないかを明らかにし、最終的には外国語教授法の改善にも貢献することを目的とする研究分野である。日常語としては、「対照」は「比較」と同様に使用されるが、1940年代以降、言語の対照研究と比較研究とが区別され、対照言語学は、その重要性が強調されるようになり、1940～50年代のアメリカ言語学を背景に成長した。したがって、名称は類似しているが、「対照言語学」と伝統的な「(印欧)比較言語学」とは異なる学問分野として区別する必要がある。この授業では、日本語と英語の2言語を取り上げ、両言語の対照研究について、その研究対象と内容、及び方法論について講義する。主要なテーマとして、日英語の基礎語彙、特に多義語の対照研究に焦点を絞り、認知言語学と認知意味論の理論に基づいた多義語分析の事例研究を示すことにより、日英語の多義語の分析方法の基礎についても学ぶ。

到達目標

- (1) 学生は、言語の対照研究とは何か、について理解する。
- (2) 学生は、多義語・単語の多義性とは何か、について理解する。
- (3) 学生は、認知意味論の理論に基づいた多義語の分析方法の基本を身に付ける。
- (4) 学生は、日英語の多義語の多義構造について対照言語学の観点から考察する。

期待される効果

- (1) 学生は、日本語と英語の言語学的な類似点と相違点について理解できようになる。
- (2) 学生は、日本語と英語の多義語の意味を区別し、認知意味論の観点から、その多義構造を理解できるようになる。

先修科目

言語学入門 (Introduction to Linguistics)

教科書・参考資料等

DIRVEN, R. and M. VERSPOOR (1998) *Cognitive Exploration of Language and Linguistics*. Amsterdam: John Benjamins.

EVANS, Vyvyan (2007) *A Glossary of Cognitive Linguistics*. Edinburgh: Edinburgh University Press.

松本曜 (編) (1996) 『認知意味論』 (シリーズ認知言語学入門 第3巻) 東京: 大修館書店

瀬戸賢一 (編) (2007) 『英語多義ネットワーク辞典』 東京: 小学館

高橋英光 (2010) 『言葉のしくみ 認知言語学のはなし』 札幌: 北海道大学出版会

辻幸夫 (編) (2002) 『認知言語学キーワード事典』 東京: 研究社

辻幸夫 (編) (2003) 『認知言語学への招待』 (シリーズ認知言語学入門 第1巻) 東京: 大修館書店

授業の方法

この授業は、基本的には講義形式で行う。教科書は使用しないが、毎回、講義内容をまとめたハンドアウトを配布する。また、パワーポイントによる講義内容の提示も行う。学生に日英語多義語分析の課題を課し、その研究結果を発表してもら場合もある。

成績評価

(1) 授業内容に関する小レポート：毎回の授業内容の復習的なトピック（あるいは次回の授業内容の予習的トピック）のレポートを持ち帰り課題として学生に与える。このレポートは次の授業で講義が始まる前までに提出することが求められる。

(2) 学期末レポート（30%）：日本語と英語の対応する多義語のペアを選択し、授業で講義した認知意味論的な多義語分析方法を用いて学生は10ページ程度のレポートを作成する。このレポートは口頭発表してもらう場合がある。

成績

- (1) 授業内容に関する小レポート（50%）
- (2) 学期末レポート（30%）
- (3) 授業時の質問と発言（20%）

授業スケジュール

第1回：日英対照言語学のアウトライン

- (1) 日本語と英語の比較
- (2) 語の多義性とは何か？

第2回：概論（1）対照言語学とは何か

- (1) 対照言語学の定義と研究の目的
- (2) 対照言語学的に見た日本語と英語の特徴

第3回：概論（2）日英語の語彙の対照

- (1) 単語と意味の対応関係
- (2) 日本語と英語の単語の間の「意味のずれ」

第4回：認知意味論による多義語分析（1）

- (1) 認知言語学と認知意味論の考え方
- (2) 多義語分析に用いられる認知の働き

第5回：認知意味論による多義語分析（2）

- (1) 多義語の認知意味論的分析の方法
- (2) 認知意味論による多義語分析の事例研究：英語の“bar”

第6回：日英語の多義語分析（1）

- (1) 名詞（1）：日本語「学校」と英語“school”の分析
- (2)（2）上記多義語の多義構造における日英語の対照

第7回：日英語の多義語分析（2）

- (1) 名詞（2）：日本語「家」と英語“house”の分析
- (2) 上記多義語の多義構造における日英語の対照

第8回：日英語の多義語分析（3）

- (1) 名詞（3）：日本語「虫」と英語“bug”の分析
- (2) 上記多義語の多義構造における日英語の対照

第9回：日英語の多義語分析（4）

- (1) 形容詞（1）味覚形容詞：日本語「甘い」と英語“sweet”の分析
- (2) 上記多義語の多義構造における日英語の対照

第10回：日英語の多義語分析（5）

- (1) 形容詞（2）：色彩形容詞：日本語「クロイ」と英語“black”の分析
- (2) 上記多義語の多義構造における日英語の対照

第11回：日英語の多義語分析（6）

- (1) 動詞（1）：日本語「食う」と英語“to eat”
- (2) 上記多義語の多義構造における日英語の対照

第12回：日英語の多義語分析（7）

- (1) 動詞（2）日本語「飲む」と英語“to drink”の分析
- (2) 上記多義語の多義構造における日英語の対照

第13回：日英語の多義語分析（8）

(1) 副詞：日本語「まだ」と英語“still”の分析

(2) 上記多義語の多義構造における日英語の対照

第14回： 日英語の多義語分析（9）

(1) 格助詞と前置詞：日本語「ト・ニ・デ」と英語“with”の分析

(2) 上記多義語の多義構造における日英語の対照

第15回： 日英語多義語分析のまとめ

(1) 多義語の意味の区別の方法

(2) 多義語分析と意味拡張の動機付けの認定の方法

第16回： 期末試験ではなく学期末レポートを課す

事前・事後学習

(1) 予習：次回の講義内容に関する課題（小レポート）を出すので、解答する過程で疑問点を明確にしておくこと。

(2) 復習：当日配布された講義内容に関する配布資料を読み直し、予習の過程で生じた疑問点を解決し、理解を定着させること。